

# 博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程  
博士学位論文審査委員会

主 査	吉武 良治
審査委員	橋田 規子
審査委員	梁 元碩
審査委員	米村 俊一
審査委員	石橋 基範
*審査委員	

氏 名	嶋田 淳
論文題目	先進運転支援システム利用における運転者の最適な心理状態
〔論文審査の要旨〕 安全運転支援システム（ADAS）や自動運転技術（AD）の進化により、自動車運転の安全性は確実に向上している。世界中で様々な研究開発が行われており、その中で ADAS や AD 使用時のドライバーの心理状態に関する研究も多く、ドライバーの不安感やストレスの軽減効果とそれに起因するシステムの安全性向上を示している。一方でリスク補償などの考え方のもと、ドライバーのシステムへの過信などにより不安全な行動を起こす可能性がある事を指摘する研究も多い。本研究では、運転中のドライバーの心理状態を最適に保ち、安全へのモチベーションを維持したまま運転に臨めるようにするための技術開発への貢献、そして ADAS/AD 等の社会受容性の向上を目標とし、「運転支援システムを利用するドライバーの最適な心理状態のモデル化」を行った。安全運転支援とドライバーの心理に関する多くの研究を調査・整理し、2 つの実車実験、及び大規模な WEB 調査を実施した。そして数々の研究、論文で言及されてきた知見等と齟齬のない、ドライバーの最適な心理状態のモデルを一元的に示したことは特筆すべき成果といえる。 公聴会・最終審査は、2月10日(水)17時よりオンラインにて実施した。出席者は上記審査委員の他、20名程度の聴講者にて、約1時間の発表と約45分の質疑を行った。質疑において、本研究の成果である考え方やモデルについては、十分に理解を示していただいたが、具体的な応用の方法や社会実装の計画等について質問があった。モデルの活用についてのビジョンは適切に回答できたが、実際の活用、普及、そしてモデルの見直し等は今後の課題であることが述べられた。審査委員からは、予備審査にて指摘した内容については、すべて適切に修正、対応できている旨、コメントをいただくことができ、さらにモデルの改良の方向性やグッドストレス/適度な不安の与え方等について、質問とコメントがあったが、本論文の成果は高く評価され、修正を求めるものはなかった。 なお、本研究に関する研究業績としては、第一著者論文（査読付）2編、国際会議での発表・プロシーディングス掲載1編であり、審議の結果、審査委員、全員一致で「合格」とした。（論文博士だが、課程に3年間在籍し、満期退学後2年以内のため、研究業績は課程博士の審査基準が適用される）	